

# 10年のあゆみ

2012年～2022年



## 上智大学金祝燦燦会

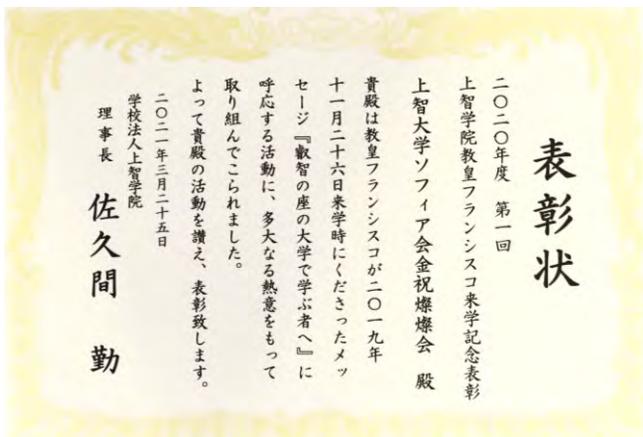
— 留学生のために、留学生と共に —

出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル

## Sophia Goldenagers' Club

- For international students, With international students -

Let's be active - act when you can, do what you can.



表彰状と受賞式の様子。写真はソフィア会提供。

## 金祝燦燦会は

### 第一回「教皇フランシスコ来学記念表彰」を受賞しました

上智学院は、教皇フランシスコの来学(2019年11月26日)の記憶を永くとどめるため、「教皇フランシスコ来学記念基金」を創設しました。そして、2021年3月25日に、2号館17階国際会議場にて「第一回教皇フランシスコ来学記念表彰式」が開催されました。この基金の目的は、教皇フランシスコのメッセージの中に込められている様々な課題への取り組みを支援することであり、貧困や社会的弱者の課題、多文化共生社会の実現や、地球環境問題などに取り組む教育・研究活動、学生・生徒活動への支援をより強化するためです。

金祝燦燦会は、「金祝後もソフィアンとして母校貢献するため、一貫して本学の外国人留学生の支援・交流を活動の中心に置き、留学生による日本語スピーチコンテストの開催、金祝勉学奨励金を支給するなど、国内での留學生活の心の支えとなり、多文化共生社会の実現に向けた様々な活動を続けている。その活動がまさに教皇のメッセージに合致するもので、後進の模範となる。」ということで今回の受賞につながったものです。

10年のあゆみ  
発行  
上智大学金祝燦燦会  
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1  
上智大学ソフィア会事務局気付  
TEL: 03-3238-3041  
E-mail: sansankai@sophiakai.gr.jp

# 目次

- 2 第一回「教皇フランシス コ来学記念表彰」表彰状と受賞式
- 3 目次
- 4 10年を振り返って - 濱口吉右衛門 金祝燦燦会会長
- 5 佐久間勤 上智大学理事長寄稿文、曄道佳明 上智大学学長寄稿文
- 6 鳥居 正男 ソフィア会会長寄稿文
- 7 特別寄稿 - カリー先生
- 8 特別寄稿 - サリ先生
- 私たちが見た燦燦会 - 木下総務局長、川瀬ソフィア連携室長
- 9 私たちが見た燦燦会 - 柳澤学生局長、栗原学生センター事務長、  
森田ソフィア会事務局長
- 10 一口千円募金と金祝勉学奨励金  
卒業した留学生から、サイラさん
- 11 留学生のお礼の言葉
- 12 留学生のお礼の言葉(つづき)
- 13 ニュースレター
- 14 イベント写真集
- 15 イベント写真集(つづき) 留学生夢支援募金
- 16 上智学院からのお知らせ
- 17 燦燦会会則
- 18 会員名簿
- 21 上智大学金祝燦燦会(燦燦会の事業、一口千円募金と留学生夢支  
援募金、業務ハンドブック、会員の顕彰)
- 22 上智大学校歌
- 23 留学生による俳句、編集後記
- 24 日本語俳句、英語俳句の最優秀作品とその和訳

# 10年を振り返って

2012年1月「金祝燦燦会」は母校のために何かお役に立ちたいという思いから33名で発足し、同年5月に代議員会でソフィア会の登録団体として承認されました。この会の名称は金祝を祝っていただいた式典で頂戴した「祝状」にあった「世の光」を念頭に、お互いにもう少しく輝いていたいという思いから「金祝燦燦会」と命名しました。式典での理事長のお言葉〈他者のために、他者と共にをしっかりと心に刻み、私どもは「他者」を「留学生」と置き換え〈留学生のために、留学生と共に〉といたしました。おかげ様で2022年に10年を迎える事ができました。

発足した当初は何もわからず、多くの困難に直面しましたが、大学側や、ソフィア会事務局、そして燦燦会の顧問の方々に一緒に考え何度も助けていただいた事、心から感謝いたしております。この会は金祝が終わってから入会するために、若い会員でも72歳以上という〈老人の集まり〉です。当然多くの会員は年金生活者であり、お互いにムリは禁物です。昨年、燦燦会にすばらしいモットーが出来上がりました。

## 出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル!!

このモットーこそ、まさに燦燦会にピッタリだと実感しており、このモットーのもとで、楽しい会となる事を心から望んでいます。

この10年の間で最も心に残った出来事は、2021年3月25日第一回【教皇フランシスコ来学記念表彰】で名誉ある賞を燦燦会が頂いたことでしょう。私ども一同この機会に教皇様のご意向に沿ってさらに深く留学生に寄り添っていく決意をいたしました。

その結果として、一つは学院とご相談して「留学生夢支援募金」が学院によって設立され、5月に募金が始まります。留学生が大学で学んだ知見を母国でどう生かしていくかの〈夢〉を論文にもらいます。懸賞論文のテーマは「日本で、上智で学び、かなえたい、私の夢」で日本語でも英語でも構いません。教皇様表彰の副賞としていただいた20万円は「留学生夢支援募金」への第一号としてすでに理事長にお渡しいたしました。この募金が大きく羽ばたくことを切に願っております。

もう一つは、毎月の「運営会議」を始める前に、勉学奨励金を受賞した留学生や俳句コンテストで入賞した留学生に講演を依頼し、すでに7名の留学生が講演をしてくれました。この企画はとても好評で7名の留学生一人一人が明るく前向きでコロナ渦にも挫けず、自分のやるべき課題に向かって力強く歩んでいることを、そして、いずれ母国で役に立つ〈夢〉がありそれを実現したいと熱心に私どもに話してくれます。大いに期待し、心からの拍手を送りたい気持ちです。

2022年、発足から10年を振り返り次への第1歩を踏み出す年にいたしまししょう。そして留学生一人一人の「夢」に出来るだけ寄り添い〈留学生〉から見て〈輝いている先輩〉とみてもらえるよう、心がけていきましょう！

濱口吉右衛門 金祝燦燦会会長

## 理事長、学長、ソフィア会会長に 燦燦会について語っていただきました



上智学院  
佐久間 勤理事長

金祝燦燦会発足10年を心よりお祝い申し上げます。金祝を祝われた諸先輩による会ですから、発足10年後の現在は、もしあれば、ダイヤモンド祝をお祝いすべきところですが、世の習いでは会員の皆様のご健康を慶ぶことが祝辞の中心点なのでしょうが、金祝燦燦会会員の皆様はそのようなことは言わずもがな、母校の発展のための活動を継続してこられましたことに刮目しつつ敬意を表します。

私が金祝燦燦会の活動と最初に出会ったのは毎年2回開催の「留学生の俳句コンテスト」でした。この俳句コンテストは、昨年第9回を数え、毎回数十句の応募があるという活発な活動です。英語の作もあれば日本語での句もあるという多様な、そしてかなりの数の応募作品が毎回寄せられることに感心しましたが、それ以上に、英語での俳句そのものが私には新鮮な体験でした。そして俳句を通して、留学生が自然やこころの風景を切り取る仕方に共感でき、文化や出身地の違いが超えられることが何よりも素晴らしい体験でした。金祝燦燦会会員の江澤健二先生が英語の句をふさわしく和訳されるので、英語の詩がまさしく俳句になるという奇跡を、毎回、目の当たりにすることができました。留学生と日本文化、そして上智大学との橋渡しとなる実に意義深い活動です。

留学生にとっては経済的な心配に加えて、日常生活にも不安が伴うものです。外国での生活は母国とは違って人間関係も限られ、文化や習慣の違いに戸惑い、身の回りが厚い壁のようなものに取り囲まれているような孤独感も時には重くのしかかります。日本に留学を志す学生にとっては、専門の勉強に加えて日本の文化と人々に直接触れることも留学目的の重要な部分となっていることでしょうか、そのような壁に妨げられては、せっかくの留学の目的も十分には達成できないことになってしまいます。自ら活動し、直接出会うことで、ただ知識としてではなく心も日本に入りこめるきっかけがあれば、たとえ戸惑いや苦勞の多い留學生活であっても、後々、よい思い出となるのではないのでしょうか。金祝燦燦会で留学生に提供している俳句や茶の湯、スピーチコンテストなど異文化の実体験はきっと、学生たちの心の支えになっていると思います。

私が少しでも貢献できることとしては、金祝の祝典などの機会です必ず金祝燦燦会の活動をご紹介しますようにしています。金祝の後にこそ母校のために貢献しようとしておられる金祝燦燦会の皆様の母校愛は、後輩へのよき模範です。この活動がこれからも活発に続けられますように願っています。次の活動目標として、ダイヤモンド祝の制定運動はどうでしょうか？



上智大学  
暁道 佳明学長

金祝燦燦会が10周年を迎えられるにあたり、心からの祝意と敬意を表したいと思います。誠にありがとうございます。現在では約400名の会員数となり、益々のご発展が図られる中、祝意をお伝えする機会に恵まれましたことを大変幸運に思います。ソフィア・ファミリーの様々な活動の中でも、金祝燦燦会の活動は、いかにも上智大学らしく、いかにも叡智の香りが漂い、いかにもソフィアの国際性の象徴的なものの一つであると思うからです。感謝をお伝えすべきご活動は数え切ることができませんが、私は、この節目の年にあたり、二つの観点から皆様に謝意をお伝えしたいと思います。

第一に、私は金祝燦燦会の存在そのものに御礼をお伝えしたいのです。100余年にわたる本学の歴史を振り返ると、いつの時代においても、建学の理念、教育精神を、決してぶれることなく、しかしその時代の社会情勢を睨みながら教育、研究を通じて表現してきたのだと言えます。この10年はまさに激動の時代でした。そして今後も様々な社会変革を経験することになるでしょう。この社会に生きる若者たちにどのような教育環境を提示すべきか、いろいろな模索をしてみました。私たち現役の教職員にとって、社会の非連続的な変化の中で、上智大学の伝統のもとに連綿と続く歩みの継続性をどのように保つかは大きな課題であります。会員の皆様は、上智大学に大いなる期待を抱いてくださっていることと思います。その眼差しは時に温かく、時に厳しいものでもあるでしょう。私達はその眼差しを心から歓迎いたします。50年以上にわたり、上智大学に学び、そして見守って下さる方々で構成される金祝燦燦会のご活動は、まさに圧倒的存在感として私たちに伝わって来ているのです。本当に有難うございます。

第二に、国際性を謳う本学において、ソフィア・ブランドにおける象徴的な留学生支援を行なっている点です。卒業生により自身の修学継続の支援を受けられるという環境は、単に経済的な負担の軽減にとどまらず、この社会の中で「他者のために、他者と共に」を具現化するお取り組みとして、大きなメッセージを留学生に発して頂いています。この支援の存在自体が、彼らの日本における“経験”として心に刻み込まれることでしょう。また、俳句コンテスト、日本語スピーチコンテスト、浴衣デーでの浴衣のご提供など、日本に学び、日本を学ぶことを、留学生が再認識する機会を提供いただいていることも、上智大学のキャンパスに大いなる彩りを与えてくださっています。おそらく、それらのイベントに参加した留学生達には、日本で学ぶことの達成感の上に、日本を学び、理解する新たな視野、視点が醸成されることと思います。留学生が日本を学ぶ機会は種々あるように思いますが、この手作りの機会提供は、まさに金祝燦燦会の皆様の豊富なご経験や造詣、そして上智で学ぶ意義をご経験から考えて頂いている活動によってのみ成り立つものでしょう。本当に有難うございます。

金祝燦燦会の益々のご発展を心から祈念いたします。大先輩方には非礼な表現かも知れませんが、言葉に表せない、そしてなかなか直接お伝えすることのできない様々な謝意、尊意が存在することを、どうぞ心にお留置きください。皆様のご活動により、学生の学びがより豊かになり、また私達教職員に、上智大学の良心を日々思い起こさせ、そしてこの大学が日本と世界の架け橋として輝き続けることができますよう、一層のご理解、ご支援をいただければと心からお願い申し上げたいと存じます。金祝燦燦会が10周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。



ソフィア会会長  
鳥居 正男氏

現在ソフィア会には300を超える登録団体があります。その中でも金祝燦燦会は活発に活動を展開されていることでよく知られています。金祝燦燦会は、参加者も年々増え、活動範囲も多様化しているように思います。

ソフィア会は会則で「会員相互の親睦」と「母校の発展に貢献」の2つを活動指針として掲げています。前者の「会員相互の親睦」ももちろん大切なソフィア会のテーマですが、燦燦会は特に母校の発展に力を入れて活動されていることに改めて敬意を表する次第です。

そしてその活動は、ソフィア会だけにとどまらず、大学側からも高く評価されています。上智学院が教皇フランシスコ来学(2019年11月26日)の記憶を永くとどめるとの趣旨で設立した「教皇フランシスコ来学記念表彰」に基づき、金祝燦燦会は2021年3月に第1回の表彰を受けられています。これも、ソフィア会の登録団体としては特筆すべきことだと思っています。

私は二年前に濱口会長から入会案内をいただきました。「金祝を迎えられた皆様へ」と書いてあり、会のイメージがわからなかったので何人かの先輩にどのような会なのか尋ねました。それでもよくわからなかったのですが、入会の手続きを済ませたところいろいろな連絡やニュースが飛び込み始めて、これは活発に活動をしている凄い組織なんだ、と認識させていただいた次第です。最年少が

72歳で元気いっぱいのお組織というのは、上智大学ならではの感じ入ります。卒業生が強い母校愛を持っているからこそこのような会が出来てしかも10年も続いているのだと思います。濱口会長からのお手紙に「ティーンエイジャーにならって“ゴールデンエイジャー”の仲間を広げています」とあったのがとても印象的でした。

金祝燦燦会が「母校の発展に貢献」することを掲げ、多才な活動をされていることは多くの人が認識しているところです。特に、上智大学の外国人留学生の支援・交流を活動の中心に置いて当初から取り組まれてきている留学生による日本語スピーチコンテストや俳句コンテストは、上智大学そしてソフィア会としてもきわめて重要なイベントになりました。

また、留学生への奨励金の支給も、母校が掲げる「For Others, With Others」を実践する活動だと感じています。新型コロナウイルス感染拡大によって最近では開催が難しくなっているかもしれませんが、着付け教室、茶の湯にふれる会も、留学生にとっては非常に貴重な経験ができるイベントだと思っています。

金祝燦燦会が、今後ますます発展されるのは間違いないところです。会員の対象者は金祝を終えられた卒業生ということで、毎年その対象者は数百名単位で増大します。また、今年の学位授与式に出席された方は3,300名ということで、将来は爆発的に会員が増えることが予想されます。

このユニークな会を発足し10年間運営されてこられたことに改めて心から敬意を表します。活動を継続するには特別なエネルギーが必要です。多くの会が立ち上がっては消えていくのを何度も見てきました。素晴らしい発想でスタートし、その思いを着実に実現してきた金祝燦燦会が、これから未永く引き継がれ今後さらに多様な活動を展開されることを衷心から願っています。

## 特別寄稿 — カリー先生

Congratulations to all the members of the Sophia Goldenagers' Club as you celebrate the 10<sup>th</sup> anniversary of your founding. During those ten years I have been impressed by the way your numbers have expanded and your activities have increased, true to your motto of "Let's be active - act when you can, do what you can."

You are to be commended for the many good things you have accomplished for Sophia and especially for the Sophia students from overseas, offering generous scholarships and various other forms of assistance.

I was privileged to be involved with your group in a small way from the very beginning of its existence, serving as judge in the first few Japanese language speech contests for students from overseas, and I continue to be involved as judge for the students' haiku contest.

It has been a pleasure to see how the group has grown and developed over these past ten years.

During my years as delegate of the Superior General of the Society of Jesus to the World Union of Jesuit Alumni/ae (2010-2014), I was privileged to travel to various countries and observe the activities of alumni associations of Jesuit schools and universities around the world. I haven't seen any organization as dedicated to the advancement of their Alma Mater and its students as the Sophia Sansankai. Keep up the good work as you move on to even greater accomplishments!

William Currie, S.J.

## 設立10年を迎える上智大学金祝燦燦会へ

旧約聖書の知恵の書(2章)に「われわれの名は時とともに忘れられ、誰もわれわれの業績を思い出してくれない。われわれの一生は薄れゆく雲のように過ぎ去り、霧のように散らされる」という言葉があります。実はこれは神に従わない人々の考えであり、「その考えは誤っている」と聖書は語っています。さて、この世の中に一時的にしか存在しない人間の心に忘れられないことを残す誰かが(他者)います。死にゆく者のことを生きる人が思い続けることが大いにあります。親しい人を心にとめる、あるいは運命の出会いともいえる人々が他人に影響を与える、または困っている人に気を配り、ニーズに応えながら人を育てるような行いも人の心を動かします。そういう人たちも忘れられない存在として心に残ります。金祝燦燦会(上智の卒業50周年を祝った方々)の皆さんの取り組みは留学生の心におおきな財産として残っていきます。

10年前から登録団体として開始している金祝燦燦会のメンバーのみなさんは厳しい時代に上智大学を卒業し、世界のさまざまな現場、特にグローバルな舞台で活躍し、次の時代を導いてきました。燦燦会の設立当初、たまたま学生センター長だった私は先輩方の熱心な討議(つまり現役学生、特に留学生に対して自分たちは何ができるかという)に感銘を受け、この活動を応援してきました。そして今も続く、「我々ソフィアン」としてどのように若者への貢献ができるか、母校において恩返しできるかを考え、その活動は10年もたちました。まずはそれをたたえたいと思います。

そして大切なのは燦燦会の活動は単にお金を提供して経済的に助けることに限らないことです。文化的交流を促す活動や奨学金受賞者の人生から学ぶ交流会等を通して互いに影響し合い、卒業生の将来のことまで一緒に考えるつながりをもっています。このように上智の諸先輩としてかわり続けることがなんと素晴らしいことでしょう。この活動は奨学金受賞者との継続的交流を通して、新世代の留学生・卒業生の新しい夢やノウハウを知り、彼らの人生の苦労話を聞き、燦燦会が互いに励まし合う交流の場になっていると感じます。この場をもって皆さんに御礼を申し上げます。日本の高度経済成長時代に日本に、世界に貢献した諸先輩から若者も多く学ぶことができます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

アガスティン サリ (FGS教授、総務担当理事)

## 私たちが見た燦燦会

### 木下 昭子 上智学院総務局長 - 愛燦燦の金祝燦燦会

2017年7月に総務局に異動となってから、奨励金授与式や俳句コンテスト表彰式にお邪魔させて頂いています。会員の皆様が留学生に注ぐ眼差しの温かさ、多様な学生をおおらかに受け止める包容力。私もほっと安心できる空間です。そして、卒業後50年という歳月を経て、入学当時や神父様との思い出を昨日のことのように語ってくださる方々。みな上智愛に溢れていて、大学が多くの支えを頂いていることに改めて気づかされました。留学生にとっても日本のゴールデンエイジャー(Goldenagers)との交流は、思い出深い経験となったことでしょう。本当にいつも貴重な機会をありがとうございます。

コロナ禍で金祝式典の延期が続き頭を悩ませていましたが、金祝を迎える(迎えた)卒業生がコロナにめげる様子もなく、前向きで、お元気で、式典を待ち望んでくださることに励まされました。今後ますます会員数も増えていくことと思いますが、金祝燦燦会のいっそうのご発展を心からお祈りいたします。

## 川瀬 崇 上智学院総務局ソフィア連携室長

この度は、金祝燦燦会の創設から10周年をお迎えになられたとのこと、誠にありがとうございます。心よりお祝いするとともに、これまでの物心両面でのご支援や働きかけに感謝と御礼を申し上げます。大学卒業後50年が経過された方々が今では400名近く集まれ、海外からの留学生に自らの夢を乗せ、最近ではデジタルツールも活用されながら、ご支援されるお姿には、ただただ感銘を受けると同時に、大いなる刺激を受けております。先般、「教皇フランシスコ来学記念表彰」を受賞されたことを受けて、何か大きなスケールでインパクトのある取り組みを行なうといふことだけが善ではなく、自らの信念に基づき、地道かつ継続的にその活動を維持・展開することに努められてきたことが何より素晴らしく、讃えられるものであると確信いたしました。

今年度より留学生夢支援懸賞論文奨学金の寄付募集もスタートいたします。活動をご一緒させていただきながら、未来を託す人材の育成と支援に向けた動きが今後益々発展されることを祈念しております。

## 柳澤 広美 上智大学学生局長 - 金祝燦燦会の皆さま

10周年おめでとうございます。燦燦会のイメージといえば、いつも学生のために何かできないかと思ってくださる温かなお気持ちとコロナ禍でも活動を続けるためにオンライン会議も難なくこなす前向きなお姿です。卒業後も“*For Others, With Others*”の志を持ち続け、後輩のためにご尽力くださることに、あらためて感謝申し上げます。

遠く離れた異国の地から知り合いもない国にやって来た留学生にとっては、経済的な支援のみならず、学生の気持ちに寄添ってくださる皆さまは大変心強い存在であると同時に、かけがえのない日本での思い出となっていることと存じます。俳句コンテストでは、留学生の四季の移ろいを繊細に感じ取る力や豊かな表現力に圧倒されるとともに、毎回学生の英語の俳句を大先輩が素晴らしい日本語に訳してくださるのを拝見するのも楽しみになっております！

ますますお元気で、さらに輝く燦燦会となりますよう心よりお祈り申し上げます。

## 栗原 康行 上智大学学生センター事務長

金祝燦燦会創立10周年を迎えられたこと誠にありがとうございます。

発足以来、留学生が上智での勉強や交友を通じて日本に馴染み、将来は母国と日本との懸け橋となる存在へと成長することを期待し、物心両面で様々なサポートをいただいております。私も2016年7月に学生センター配属以来、祖師谷国際交流会館におけるスピーチコンテスト、俳句コンテスト、浴衣デーでの着付け教室といった機会でご一緒させていただき、若い人々に寄り添い、ともに歩み続けようという金祝燦燦会の姿勢から、多くを学ばせていただきました。活動の際には、必ず表彰授与式や懇親会の場で留学生と会員が交流する機会を設けていただき、沢山の愛情を注いでいただいております。留学生からは、「慣れない環境で不安がある中、自分たちのことをこんなにも考えてくれる卒業生がいると知り、留学生活の心の支えとなった」という声も聞いています。

あらためまして、会員皆様のご支援に感謝申し上げるとともに、会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 森田 浩一 上智大学ソフィア会事務局長

その昔七十才を過ぎると、山奥まで連れていかれ、置き去りにして捨てられた。そんな映画にもなった民話か伝説か、はたまた実話が残っている地方があります。話では、母親を捨てられなかった息子は家にかくまい、その後の村に次々起きた難題を当人が解決したことにより、その風習は無くなったとのこと。

金祝燦燦会の方々には、恐らくはソフィア会の様々な難題を解決する力がありながら、その仕事は後輩に譲り、留学生支援という明確な目的の範囲で力を発揮しているの方々という印象です。多少頑固で我がままではありますが、上智大学卒業生の模範となる品格と良識を持った紳士淑女の集まりに、あらためて敬意を表します。燦燦会の皆様は事務局職員に対して、本来は叱責してもおかしくない場面でも、こちらが恐縮するほど丁寧に接して頂きまして感謝申し上げます。この度は十年史の発行おめでとうございます。

# 一口千円募金と勉学奨励金

一口千円募金は、上智学院が「SOPHIA未来募金」の一環として設立して運営しているもので、海外からの留学生を支援するために、燦燦会が寄付のお願いをし、上智学院が燦燦会の会員からの寄付を受け付け、勉学奨励金、俳句コンテスト、日本語スピーチコンテスト、茶の湯にふれる会やその他の留学生支援活動のために使用されるものです。2021年には皆様から90万円以上のご寄付をいただきました。

勉学奨励金は燦燦会を代表する留学生支援事業で、会が設立された翌年の2013年に開始され、学院からも大学からも高く評価されています。対象は学部または大学院に正規生として在学している学生で、「学業成績が優秀かつ経済的支援が必要と認められ、将来国際社会に寄与すると思われる私費外国人留学生」で、さらに、燦燦会の各種イベントに積極的に参加し会員と懇親する意欲があり、なるべく多様な国・地域からの学生を選ぶことを基準として選考されています。受賞者からは毎回心のこもった礼状が送られてきます。卒業生からの便りもありました。

## 卒業した留学生からです

“Sophia Sansankai and Me”

By Elisabeth Rada Desideria Ito (旧 Seiler)

In September 2018, I started my Ph.D. at Sophia University. My dream was always to study in Japan, but I was not lucky at the beginning of my studies. With no scholarship, no job and no accommodation, I started my study life at Sophia University. But then everything slowly changed for the better especially in 2019. I found a job at the university, accommodation, and received small scholarships.

In August 2019, I then received the Sophia University Kinshuku Encouragement Award as one of six proud award winners. At the award ceremony, I had made a small speech about my country of origin, Germany, and had a very nice conversation with the members of Sophia Sansankai and the other award winners. This day is still very strong in my mind, because at the Sansankai are very many interesting personalities. From that time on, I had contacts here and there with the Sansankai. People told me that they always had an ear for me and wanted to help me, which I found very nice. Then, right in 2020 the covid-19 pandemic started, so for months no people were allowed to enter Sophia University. However, since I was doing research in the scientific field, I had to rely on laboratory experiments. I was desperate and contacted the Sansankai to see if they could help me. They were very nice and contacted other professors to see if anything could be done for me. In the end, all they could do was wait for the university to open again. But I have to say that I was extremely happy that someone listened to my problems and stood up for me.

In the same year, with much gratitude, I again became the proud recipient of the Kinshuku Award. I am still very impressed with all that the Sansankai organizes (Haiku, Speech Contest, etc.). They have been with me until the end of my studies and some people even participated in my Ph.D. defence. I would like to thank everyone from Sansankai, of course for the financial support, but even more for the mental support. I wish to keep in touch with you in the future. Much 感謝。

ザイラさんはドイツ出身です。理工学研究科理工学を専攻し、2021年に博士号を取得。現在金沢大学の研究員として働いています。

## 勉学奨励金受賞者の言葉

Debert Awen、フランス、地球環境学研究科、地球環境学専攻、博士前期課程

I would like to express my sincere appreciation to the kinshuku-sansankai for its assistance and generous financial support, as well as for the trust that this donation conveys towards my academic career, which I am deeply thankful for. I am very much confident in the fact that this offer will help me conduct my studies in an environment free of financial uncertainties, something which I valued a lot in my first semester, as I strongly believe that it has greatly contributed to my mindset and enable me to obtain good grades despite the important workload. Therefore, I also trust that using this donation for my living expenses and will enable me this year all the same to focus solely on the completion of my studies and maintain my grades to a satisfactory level.

Awa Joel、カメルーン共和国、地球環境研究科、地球環境学専攻、博士前期課程

Online studies this semester due to Covid-19 have been challenging yet interesting and taught provoking. The pandemic has destabilized me financially as I cannot do my usual part time job following calls for everyone to maintain social distancing. I therefore see this scholarship award at this time as a blessing as it is going to help me get a good laptop for my studies. I am indeed indebted to your honorable Association for assisting especially those in difficulties to be able to achieve their dream academic goals...

Pangilinan Lorenzo Llorente、フィリピン共和国、グローバル・スタディーズ研究科、グローバル社会専攻、博士前期課程

...writing this letter to express my deepest gratitude for your kind organization in choosing me as one of this year' recipients of the SOPHIA UNIVERSITY KINSHUKU ENCOURAGEMENT AWARD...This Encouragement Award empowers me to overcome my present circumstances and fight for the accomplishment of my Master's degree which, in turn, would qualify me to apply for my country's Foreign Service Exam...

Adu Isaac Kwaku、ガーナ共和国、地球環境研究科、地球環境学専攻、博士後期課程

...My heart is filled with joy, happiness and appreciative of the fact that I was chosen as a recipient of your scholarship...I am in the material and life science laboratory with great emphasis in medicinal product synthesis, and research in multi-disciplinary fields such as nanoscience, pharmacognosy and chemistry...By awarding the Kinshuku scholarship you have lightened my financial burden which will allow me some time to focus more on the most important aspect of school learning and research work...

Torres Juan Sebastian、コロンビア、地球環境学研究科、地球環境学専攻、博士前期課程

金祝燦燦会様からのご支援のおかげで、今年一年、より多くのことにチャレンジし、多くの知識を身につけ、研究に集中し、意義のある学生生活を送ることができます。改めてお礼申し上げます。Muchas Gracias de Corazon「心からありがとう」

Cut Naomi Noor Azmi、インドネシア、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻、博士前期課程

This letter I am writing is to express my sincere gratitude for the generous financial support towards my higher education. I am very grateful and honored to have been selected as one of the Kinshuku Encouragement Award 2021 Scholarship recipients. I cannot thank you enough for this act of kindness and generosity, and I hope to make great use of the scholarship.

Wang Xiaoshuang、中華人民共和国、総合人間科学研究科、心理学専攻、博士後期課程  
。。。去年、臨床心理士の資格を取り、中国人の患者さんがたくさん通っているクリニックや中国語心理相談室でカウンセラーをやっています。。。現在は、研究と臨床を両立し、多忙な毎日を送っています。特に、コロナの収束が見えない現在、医療現場で患者たちを支える自分の役割の大切さを実感しています。。。上智大学金祝燦燦会奨学奨励金に採用していただき、心より感謝申し上げます。たくさんの勉強や実践をし、より早く立派な臨床家になりたく、より多くの方々の力になりたいと願っています。

Dziubinski Kiana Issamar、アメリカ合衆国、理工学研究科理工学専攻、博士前期課程  
。。。奨学奨励金のご支援を頂けるようになりまして、誠に有難うございます。。。現在私は360度 Virtual Reality (VR)ビデオストリーミングの需要拡大に対応するための帯域幅やストレージの消費を低減する手法の研究を行っています。。。奨励金は、研究費と生活費として使わせて頂きたいと考えております。また、ご支援に恥じぬよう、残りの学生生活ではより一生懸命勉強し、更なる効率的な技術開発に取り組んでまいります。

Okonkwo Obinna Wilson Chizoba、ナイジェリア、地球環境学研究科、地球環境学専攻、博士前期課程

I am honored in a special way to be a recipient of the 2021 Sophia university kinshuku encouragement award of 50,000yen. Words alone cannot express my joy and happiness for this award. My parents back home are also thankful for this award. I am very grateful, and I want to use this opportunity to say a big thank you to Kinshuku-sansankai for finding me worthy of this great award.

Sagastegui Paulina、メキシコ、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻、博士前期課程

I am planning to use the money from the Scholarship to pay my rent since that is one of my heaviest payments. I want to express my gratitude for the aid you are providing. All the help that we receive as students is well taken and extremely helpful. I hope you are able to continue financing students in the future since it is one of the best feelings to be able to receive such financial aid to survive during our stay in Japan.

Zhou Wanyi、中国、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻、博士前期課程

As for my recent situation, since I am taking 4 courses this semester both online and face-to-face courses together with the preparation for graduation project and job-hunting, it is an extraordinarily busy semester for me, leaving barely no time for me to have a part-time job to support my daily expenses. With the help of this scholarship, I can allocate more of my time and effort on my study and research instead of taking part-time jobs to support my daily expenses.

Oh Minyoung、韓国、文学部新聞学科

奨学金は生活費に半分、学習費に半分を使用する予定でございます。資金の問題で、買わなければならない本が買えなくて困っていたところ、奨学金をもらうことになって、買うことができるようになりました。もう一度心より感謝申し上げます。奨学生として採用していただいた分、私の発展のための資金として大切に使用させていただきます。貧しい家庭環境にもかかわらず、夢一つを持って留学に来たと私が時々には情けないと思い、罪悪感を感じることもありました。しかし今回奨学金をもらって母の負担を減らすことができ幸せでした。母に奨学金をもらうことになったと伝えたら本当に喜ばれました。誇らしい娘、学生になれるように努力します。またこれから社会から受けた助けを返せる人になるために夢に向かって前進します。

Mesa Luis Felipe、アメリカ、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻、博士前期課程

The pandemic has also made it so that my part time job decreased as we started teaching online, which also means that my income decreased. I am really grateful to the Kinshuku Sansankai because I can use this scholarship to pay for my last semester and be able to graduate.



# 写真集



写真上から ①燦燦会創立時のメンバー(三溝真季さん提供)、②⑤スピーチコンテストの風景、③④優勝者、⑥俳句コンテストの後で、⑦ソフィアズクラブでの懇談、⑧⑨⑩留学生との交流、⑪浴衣デー、⑫着付け教室を終えて



写真上から ①俳句コンテスト後に全員集合、②表彰状、③Zoomによる俳句コンテストの表彰式、④総会には元駐米大使の藤崎一郎氏にも参加していただきました。

## 留学生夢支援募金

新しく設立される「留学生夢支援募金」は、燦燦会ではなく、上智学院が主体となって燦燦会の会員のみならず広くソフィア会会員、在学生の父母、教職員さらには企業等の法人および団体に拡大して寄付をお願いし、その資金は海外からの留学生を支援するために使用されるものです。留学生の支援を標榜している燦燦会は、新しい募金の企画段階から参画し、将来的には燦燦会の会員への寄付の呼び掛け等を通じて上智学院と協働することになります。次ページに学院が留学生夢支援募金を開設した経緯と、学院の留学生夢支援募金に対する期待感が述べられています。

下記の写真は、学院が発行した2022年春号の「FUND FOR THE TUTURE」冊子のトップ記事の一部と、燦燦会が夢支援募金への第1号寄付者として、「教皇フランシスコ来学記念基金表彰」で戴いた20万円を寄付したときの様子です。(写真は上智大学提供)



## 上智学院からのお知らせ



上智学院では、上智大学、上智大学短期大学部における教育研究支援活動、学生の就学・奨学支援活動、教育研究環境整備支援活動およびグローバルキャンパス創成とサステナビリティ推進支援等に要する資金を調達するために、「SOPHIA未来募金」を設けております。寄付をしていただく場合には、前述のような用途を指定していただくことはもちろん、寄付者が新しい用途を指定することも可能です。学内における資金ニーズに基づき、2022年春の時点で約50種類の用途メニューで募金活動を行っています。

この度、学院では、燦燦会様のご協力を得て新たに「留学生夢支援募金」を開設することになりました。募金の開始は5月から（寄付依頼冊子「FUND FOR THE FUTURE」発送後）となります。この募金は学院が「教皇フランシスコ来学記念表彰」を創設し、燦燦会様がその表彰式で第一回目の受賞をされたことが発端となっています。そして、燦燦会様は教皇フランシスコの来学（2019年11月26日）の記憶を永くとどめるため、副賞の20万円を一過性のお金として使うのではなく、それを原資として有効に利用したいという強い思いを込めて「留学生夢支援募金」と命名され企画されていると聞いております。

燦燦会様は、金祝後もソフィアンとして母校に貢献するため、一貫して本学の外国人留学生の支援・交流を活動の中心に置き、会の創設以来継続されている一口千円募金を原資として留学生による日本語スピーチコンテストの開催や勉学奨励金を支給するなど、国内での留学生活の心の支えとなり、多文化共生社会の実現に向けた様々な活動を続けておられます。改めて御礼申し上げます。その活動がまさに教皇のメッセージに合致するもので後進の模範となる、ということで第一回目の受賞につながったものです。

留学生夢支援募金での具体的な活動内容は、留学生が上智大学を卒業した後、大学で学んだ知見をそれぞれの母国あるいは日本でどのように活かして実践していくかの「夢」を懸賞論文の形で語ってもらい、優秀な論文に賞金を提供するというものです。海外からの留学生が卒業後、それぞれの出身国と日本の架け橋として活躍してくれることを期待すると同時に、受賞論文を公開することで一般学生の留学生及びその出身国に対する理解と関心が高まり、相互交流が深まることが期待できます。このことは単に海外からの留学生を支援するというにとまらず、広くは大学の教育精神である「For Others, With Others」にも結びつく活動となることが大きく期待されます。

金祝燦燦会の会員の皆様にはよろしくご理解とご協力をお願いいたします。

上智学院総務局ソフィア連携室長

川瀬 崇

2022年3月

# 燦燦会の会則について

総会を最高議決機関とする団体が一般的であることからすると、毎月開催される会議を最高議決機関と規定する団体は珍しいかもしれません。2022年に改訂された会則では、会員の年齢層を考慮して制定されている燦燦会のモットー「出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル」の精神と、与えられた時間を大切に、無理をせず、しかしそれなりの責務を果たすべく、全力で物事に対処するという気持ちが反映されています。このことは一日一日を大切に事に当たるという我々の強い気持ちを表すものでもあります。

## 上智大学金祝燦燦会会則

1. (名称) 本会は「上智大学金祝燦燦会」と称し、通称を「さんさん会」または「燦燦会」とする。英文名称は "Sophia Goldenagers' Club" とする。
2. (事務局所在地) 事務局所在地は〒102-8554千代田区紀尾井町7-1上智大学ソフィア会事務局気付とする。
3. (目的) 金祝世代の仲間との交流・親睦を図ると共に母校上智大学に貢献することを目的とする。
4. (事業) 前条の目的を達成するための事業を行う。
5. (会員) 金祝を迎えたソフィア会会員で、終身会費を納めた者を会員とする。会員は総会、定例の運営会議、その他本会が開催する会議や行事に積極的に参加することが望まれる。
6. (終身会費) 終身会費の額は役員等の合議により設定する。
7. (役員等の構成) 本会は、会長、副会長、事務局長、会計並びに業務を監査する監事及び顧問に加え、会務を遂行するために、会計、名簿管理、イベント、渉外、広報、記録、ケータリング、会員募集等の専任者を置くものとし、本会の事業を達成する。これ等本会の事業を達成する者を総称して「役員等」と呼ぶ。役員等は運営会議を構成する。それぞれの職務内容及び担当者については別途定める。
8. (運営会議) 運営会議は本会の最高議決機関であって、本会の運営及び活動に関する事項を出席者の合議により審議決定し、本会の会務の責に当たる。運営会議は対面またはリモートで開催し、議長は会長または会長により指名された者が務める。
9. (役員等の選任) 会長、副会長及び事務局長を含めた役員等は、任期満了等に伴う役員等の一部または全部が交代する場合を含め、会長、副会長と事務局長が協議の上候補者を選出し、運営会議に諮り選任する。会長は、必要に応じ、会長、副会長及び事務局長に「代理」を指名することが出来る。
10. (役員等の任期) 役員等の任期は1期2年とし、順次後輩にその任を託して行くことを基本とする。但し、役員等の再任を妨げない。役員等の任期の起算と終了は事業年度とは異なり、7月1日に始まり6月30日に終了するものとする。
11. (顧問の委嘱) 顧問の委嘱は会員、非会員を問わない。
12. (資金) 本会の事業運営及び事務連絡等のために必要な資金は、終身会費、参加費(懇親会費等)及び寄付で賄う。
13. (決算) 収支決算は事業報告とともに、毎事業年度終了後2ヶ月以内に作成し、監査を受けるものとする。
14. (事業年度) 事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了する。
15. (総会) 総会は、原則として事業年度終了後2カ月以内に開催し、会長は会務の報告を行う。

金祝燦燦会會員名簿

2022年3月現在

	卒年	名前	学科
1	1956	大槻 清四郎	経商
2	1958	飯田 久治	経経
3	1959	西村 雅男	文新
4	1959	小川 和寧	外英
5	1960	青木 宏	外英
6	1960	赤穂 忠雄	文史
7	1960	浅見 秀太郎	外西
8	1960	荒井 雄吉	外仏
9	1960	五十嵐 克至	法法
10	1960	石田 順之助	経商
11	1960	伊藤 克己	経商
12	1960	伊藤 要次	経商
13	1960	今岡 嗣雄	経商
14	1960	岩切 廣治	外独
15	1960	宇田川 義美	経商
16	1960	内海 秀夫	経商
17	1960	江澤 健二	文英
18	1960	檀本 久彦	文独
19	1960	大河内 実	経商
20	1960	大島 眞	文英
21	1960	大坪 光之	経経
22	1960	大屋 和江	文教
23	1960	岡 俊郎	文哲
24	1960	岡野 忠嘉	経商
25	1960	小川 晋一	経経
26	1960	長船 守	外西
27	1960	小澤 徹二	経商
28	1960	川野 武男	文新
29	1960	小林 祥之	外西
30	1960	小又 和夫	経経
31	1960	佐藤 富太郎	経商
32	1960	佐藤 元康	外英
33	1960	篠崎 晃	外西
34	1960	島村 通夫	外英
35	1960	白田 忠	文教
36	1960	相馬 匡	文経
37	1960	武市 英雄	文英
38	1960	田中 立夫	経商
39	1960	田中 義朗	外西
40	1960	田中 満	文新
41	1960	富永 進一	経商
42	1960	長島 博行	経経
43	1960	中村 伸	文英
44	1960	鍋島 堅造	法法
45	1960	行方 謹四郎	経経
46	1960	長谷川 州寛	経商
47	1960	濱口 吉右衛門	経経
48	1960	藤田 富造	文新
49	1960	本多 敏昭	経商
50	1960	松宮 秀好	経商
51	1960	松本 幸俊	経経
52	1960	松山 七郎	外英
53	1960	三浦 正之	法法
54	1960	三浦 節	法法
55	1960	柳澤 敏夫	経商
56	1960	山崎 卓	法法
57	1960	横手 隆弘	外英
58	1960	吉池 照信	外英
59	1960	吉田 義昭	外英
60	1960	吉田 慎吾	文新
61	1960	脇田 實	外英
(物故)	1960	青山 惟孝	法法
(物故)	1960	中村 文彦	経経
(物故)	1955	徳永 英生	経経
(物故)	1960	竹嶋 寛	文新
(物故)	1960	網野 孝四郎	外英
(物故)	1960	佐竹 章夫	外英
(物故)	1960	土肥 義尚	外英
(物故)	1960	清水 昭一	文教
(物故)	1960	中村 信義	外英
(物故)	1960	中村 宏	外西
(物故)	1960	秦野 英明	経経

	卒年	名前	学科
(物故)	1960	諏訪部 栄亮	経商
(物故)	1960	遠藤 和明	経商
(物故)	1960	山本 清	法法
(物故)	1960	吉野 拓男	文新
(物故)	1960	仙名 紀	文新
(物故)	1960	田中 健一	経経
1	1961	石澤 良昭	外仏
2	1961	石田 義俊	法法
3	1961	大堀 隆之	外露
4	1961	長田 秀雄	外英
5	1961	大和田 正子	文英
6	1961	金澤 毅	外西
7	1961	木内 秀明	経商
8	1961	立石 賢三	文新
9	1961	中村 一省	文史
10	1961	橋爪 康二	文英
11	1961	疋田 勝三郎	法法
12	1961	堀井 侃	経経
13	1961	本多 義人	経経
14	1961	松下 俊一	外西
15	1961	山口 政治	文英
(物故)	1961	石川 晴男	文新
(物故)	1961	岩崎 幸正	法法
(物故)	1961	浅香 明	法法
1	1962	阿部 正志	法法
2	1962	五十嵐 義明	経経
3	1962	石川 嘉男	経経
4	1962	伊藤 幸子	文英
5	1962	井上 智香子	外英
6	1962	今井 利治	経商
7	1962	今岡 幸雄	経経
8	1962	生内 忠	経商
9	1962	植田 恭一	外西
10	1962	岡田 信一	経経
11	1962	押田 憲一郎	文英
12	1962	織田 超	外仏
13	1962	小野 けい子	外仏
14	1962	笠原 元康	法法
15	1962	加藤 泰二郎	法法
16	1962	河邊 剛紀	法法
17	1962	小林 直彦	外英
18	1962	酒井 猛夫	外西
19	1962	柴原 大造	文史
20	1962	鍋木 顯一	文哲
21	1962	鈴田 久夫	外独
22	1962	大吉 満	経経
23	1962	高田 芳作	法法
24	1962	田島 勝彦	経経
25	1962	豊田 尚臣	文哲
26	1962	永井 彦二	経経
27	1962	長谷川 匡	外英
28	1962	松井 和治	経経
29	1962	松下 増彦	文哲
30	1962	水谷 恒雄	文哲
31	1962	山縣 孝宏	経経
32	1962	山本 千恵	文教
(物故)	1962	浅沼 静子	文英
(物故)	1962	鶴岡 朝行	経経
(物故)	1962	矢ヶ崎 元信	経経
(物故)	1962	佐々木 雅之	外英
(物故)	1962	大久保 忠司	外西
1	1963	阿部 寛	外独
2	1963	阿部 三男	外西
3	1963	石川 慶子	外独
4	1963	岩下 謙一	経経
5	1963	大石 正子	文新
6	1963	太田 太	経商
7	1963	岡 興世	外英
8	1963	小田 三千子	外英
9	1963	門野 富士雄	経経
10	1963	河野 光雄	文新
11	1963	郡山 雄二	経商

	卒年	名前	学科
	1963	小林 裕幸	文英
	1963	小林 明子	文英
	1963	小松山 紀之	外英
	1963	小川 恵子	文国
	1963	坂井 忠	又教
	1963	相良 邦夫	文独
	1963	鈴木 達也	外英
	1963	鈴木 恵子	院西洋文化研究科
	1963	高品 斉	法法
	1963	高橋 担	法法
	1963	高見 進	経経
	1963	樽角 才次	文哲
	1963	辻川 毅弘	経商
	1963	戸川 宏一	経商
	1963	戸村 武	法法
	1963	永井 宏子	文史
	1963	長谷川 真弓	外英
	1963	藤島 博幸	外英
	1963	細谷 博	外仏
	1963	堀 信行	経経
	1963	松尾 健史	外露
	1963	松下 裕恵	経商
	1963	松野 俊朗	経商
	1963	村上 玲子	文英
	1963	柳本 信一郎	経商
	1963	山本 雄造	法法
(物故)	1963	大久保 侃	経経
1	1964	荒木 稔	文史
2	1964	荒谷 桂子	文英
3	1964	上田 治男	経商
4	1964	宇多 文雄	外露
5	1964	大川 富美子	外仏
6	1964	大畑 久子	外英
7	1964	小川 勝義	法法
8	1964	小野 操	文新
9	1964	金澤 毅	外西
10	1964	神山 紀子	法法
11	1964	川島 信	法法
12	1964	河田 扶美子	外独
13	1964	川又 道子	文史
14	1964	北村 眞理子	文新
15	1964	木村 雄輔	法法
16	1964	小池 拓夫	法法
17	1964	小島 晃	外西
18	1964	近藤 恭	経経
19	1964	島根 国士	文英
20	1964	清水 敬三郎	経商
21	1964	鋤柄 恵一	経経
22	1964	杉村 晃一	文新
23	1964	杉本 洋一郎	経経
24	1964	鈴木 多美子	文史
25	1964	鈴木 美代子	文教
26	1964	関口 祥子	外英
27	1964	高間 紀雄	法法
28	1964	竹内 靖博	経経
29	1964	寺嶋 正秀	文新
30	1964	長縄 友明	外英
31	1964	永山 直人	文哲
32	1964	箱崎 裕	文経
33	1964	林 範子	文教
34	1964	林 紀美子	文史
35	1964	日比 通夫	外英
36	1964	藤田 美智子	文英
37	1964	松谷 高顕	法法
38	1964	丸山 紀久子	文英
39	1964	宮崎 文男	法法
40	1964	宮島 英二郎	文経
41	1964	宮三好 洋子	文英
42	1964	茂木 正成	文教
43	1964	茂木 敬司	外仏
44	1964	山田 貞之	法法
45	1964	山名 健司	経商
(物故)	1964	宮下 勲	経経

	卒年	名前	学科
(物故)	1964	榎田 絢子	文教
(物故)	1964	塩野 貴子	外西
(物故)	1964	アルフオンス デーケン	神哲
(物故)	1964	熊木 建郎	文英
(物故)	1964	熊木 勝基	経商
1	1965	石川 雅弥	外英
2	1965	若岡 能乃	外英
3	1965	大熊 信洋	経商
4	1965	大瀬 玲子	文独
5	1965	大貫 いね子	外英
6	1965	大野 美都子	文独
7	1965	落合 美喜夫	文教
8	1965	風間 烈	外仏
9	1965	加藤 雅子	文教
10	1965	後藤 皓夫	経経
11	1965	小松 佑子	外露
12	1965	小安 美	文英
13	1965	坂巻 武彦	法法
14	1965	佐藤 武夫	経経
15	1965	沢辺 祐孝	法法
16	1965	塩谷 惇子	文独
17	1965	鈴木 訓夫	文経
18	1965	諏訪 なほみ	外仏
19	1965	筒井 俊一	文独
20	1965	長嶺 博子	文英
21	1965	長谷川 律子	外英
22	1965	八枝 誠治	法法
23	1965	平山 勝三	経商
24	1965	森田 宗男	文独
25	1965	山下 万里子	外露
(物故)	1965	石塚 茂	外英
(物故)	1965	古川 安倫	外露
(物故)	1965	鈴木 捷夫	文新
1	1966	阿保 小枝子	文史
2	1966	飯塚 忠一	外独
3	1966	池尾 茂	理機
4	1966	伊藤 忠臣	外独
5	1966	猪野 展海	理機
6	1966	井上 眞	経経
7	1966	牛山 泉	理機
8	1966	海老澤 俊郎	法法
9	1966	大池 一章	理化
10	1966	岡部 喜平	法法
11	1966	押鐘 篤忠	法法
12	1966	小田 靖忠	文新
13	1966	忽那 義和	法法
14	1966	熊谷 朗子	法法
15	1966	小池 信之	理物
16	1966	鯉池 光充	外西
17	1966	小林 孝男	法法
18	1966	坂井 都代子	文英
19	1966	重村 順子	法法
20	1966	矢戸 庸	文英
21	1966	須賀 勝彌	理電
22	1966	鈴木 眞	理電
23	1966	瀧山 正敏	経商
24	1966	瀧山 道子	経商
25	1966	武本 弘次	経経
26	1966	田中 嘉郎	外西
27	1966	田中 淑子	外独
28	1966	坪井 文夫	法法
29	1966	富部 保	法法
30	1966	野々垣 健五	経商
31	1966	野崎 勝久	理電
32	1966	八田 武治	法法
33	1966	平田 達也	外仏
34	1966	堀口 彰	法法
35	1966	松尾 信武	法法
36	1966	丸野 六雄	理物
37	1966	三輪 佐和子	外仏
38	1966	向井 昌子	文英
39	1966	村田 龍美	文独
40	1966	山中 勝照	外英

	卒年	名前	学科
	1966	吉田 泰昌	理電
(物故)	1966	清水 武	理物
(物故)	1966	糀 正勝	外独
1	1967	相川 美子	文哲
2	1967	芦川 晋一郎	外哲
3	1967	飯田 哲彦	理化
4	1967	五十嵐 智勇	理機
5	1967	石川 靖之	経商
6	1967	石村 京子	文教
7	1967	市村 和夫	経経
8	1967	稲田 幸子	文教
9	1967	植野 薫之	法法
10	1967	氏家 和朗	理電
11	1967	宇多 寛而	外西
12	1967	江頭 妙子	文史
13	1967	江藤 美也子	外西
14	1967	及川 正博	外英
15	1967	及川 晃代	文仏
16	1967	大河原 毅	経経
17	1967	大河内 はるみ	外英
18	1967	小川 元	外露
19	1967	小田 三枝子	独
20	1967	甲斐 清明	文・国
21	1967	川崎 和子	外西
22	1967	河田 美恵子	外独
23	1967	剣持 睦子	文独
24	1967	清水 昭雄	理電
25	1967	杉 尚明	理物
26	1967	谷道 まや	文国
27	1967	種田 幸子	外露
28	1967	長島 世津子	文英
29	1967	中村 孝誠	理化
30	1967	原田 和男	経経
31	1967	福山 達夫	法法
32	1967	松方 恭子	文史
33	1967	松本 二郎	法法
34	1967	水野 勝之	理化
35	1967	村上 康子	文国
36	1967	森 正雄	理物
37	1967	山守 雄	外独
38	1967	和高 怜子	文新
(物故)	1967	田村 美代子	外西
1	1968	浅井 隆	理化
2	1968	阿部 茂	経商
3	1968	石塚 碩孝	経経
4	1968	ウイリアム カリー	神
5	1968	大野 静子	文独
6	1968	加藤 春一	経経
7	1968	加藤 純恵	外西
8	1968	川本 伸子	文英
9	1968	岸本 太郎	理物
10	1968	畔柳 文雄	理物
11	1968	小池 榮一	法法
12	1968	後藤 洋	理物
13	1968	古野間 みつ子	文独
14	1968	近藤 二郎	外葡
15	1968	佐々木 由彦	法法
16	1968	笹本 泰彦	経経
17	1968	白井 重隆	理化
18	1968	杉山 修	理機
19	1968	鈴木 正秀	外英
20	1968	関谷 裕之	外露
21	1968	丹下 泰夫	理物
22	1968	辻井 多寿	文独
23	1968	常谷 雅彦	理機
24	1968	富岡 昭二	外英
25	1968	中村 信忠	文哲
26	1968	中山 孝太郎	理機
27	1968	新田 美德	経経
28	1968	野々上 一郎	経経
29	1968	藤原 恵子	文英
30	1968	二川 幸司	理物
31	1968	松田 千春	文教

	卒年	名前	学科
32	1968	的場 正明	理機
33	1968	宮本 壽男	経経
34	1968	本村 和子	外露
35	1968	森 繁子	外西
36	1968	森田 道和	理電
37	1968	柳 諒子	外独
38	1968	嘉治 健夫	理物
39	1968	米村 征一郎	理化
40	1968	和田 貞明	外仏
(物故)	1968	星島 明光	経経
1	1969	昌谷 啓子	法法
2	1969	植田 猪一郎	法法
3	1969	上原 治也	経経
4	1969	大村 康子	文教
5	1969	河口 清平	理電
6	1969	河内 秀禎	外仏
7	1969	畔柳 園子	文独
8	1969	桑野 貴己子	文英
8	1969	桑野 貴己子	文英
9	1969	小泉 基靖	経経
10	1969	齋藤 豊子	経経
11	1969	佐々木 孜	外英
12	1969	柴田 ひさ	外露
13	1969	杉浦 静夫	理化
14	1969	武山 彰吾	法法
15	1969	田中 達夫	法法
16	1969	谷地 元 環子	外露
17	1969	千野 安雄	外西
18	1969	塚田 民枝	外仏
19	1969	永井 三雄	理電
20	1969	中村 大利	法法
21	1969	橋本 満	理物
22	1969	福本 高一郎	理物
23	1969	堀井 和久美	文独
24	1969	前川 和博	経経
25	1969	宮崎 明子	外露
26	1969	渡辺 美代子	文史
(物故)	1969	森泉 博行	外仏
(物故)	1969	清水 宏祐	理機
1	1970	池田 拓也	法法
2	1970	和泉 法夫	理機
3	1970	遠藤 三恵子	外露
4	1970	門脇 敏巳	外英
5	1970	金井 寿子	外英
6	1970	佐藤 洋子	外英
7	1970	杉森 憲一	文英
8	1970	鈴木 孝	理電
9	1970	鳥居 正男	外独
10	1970	中嶋 誠	外葡
11	1970	中嶋 みちる	外葡
12	1970	中村 明子	文史
13	1970	鳴川 和世	文新
14	1970	榎原 尚樹	経経

歴代顧問

1	1980	青柳 敬子	外西
2	1968	ウイリアム・カリー教授	元学長
3	1968	星島 明光	経経
4	2003	金谷 春美	外葡
5	1970	中村 明子	文史
6	1984	三溝 真季	法国
7	上智学院	サリ・アガスティン教授	総務担当理事
8	1967	和高 怜子	文新
9	1979	山田 知子	文国
10	1979	吉田 緑	外英

注) 退会希望者および連絡不要と連絡された方は含まれません。物故者を除く2022年3月現在の登録者は374名です。

# 上智大学金祝燦燦会

燦燦会の実態と基本的な考え方を表現するため、日本語と英語のモットーを制定しました。我々燦燦会メンバーの年齢層をティーンエイジャーに倣い、「ゴールデンエイジャー」と呼んでいます。現在の会員は約400名で、「他者のために、他者と共に」という大学の教育理念を、金祝が終わっても何とか実践できないかとの思いで「他者」を「留学生」に置き換えて活動しているソフィア会の登録団体です。上智大学の教育理念であるFor Others, With Othersを具体的に、For international students, With international studentsとし、海外からの留学生に対してほんの少しでも、ほんの小さなことでも何かお役に立てることをしようという気持ちで活動しています。会員は全員が72歳以上です。

## 留学生向けの主な事業・行事

金祝勉学奨励金の授与、日本語のスピーチコンテスト、俳句コンテスト、茶の湯にふれる会、ASFでの『お休処』懇親会、浴衣デー用の浴衣の提供、着付け教室の開催等があります。

## 一口千円募金と「留学生夢支援募金」

一口千円募金は、燦燦会が主体となって会員に呼びかけ海外からの留学生を支援するための募金活動です。その資金は勉学奨励金、日本語スピーチコンテスト、俳句コンテスト、茶の湯にふれる会やその他の留学生支援活動のために使用されています。一方、新しく設立される「留学生夢支援募金」は、燦燦会ではなく、上智学院が主体となって燦燦会の会員のみならず広くソフィア会会員、在学生の父母、教職員さらには企業等の法人および団体に拡大して寄付をお願いするものです。そして、その資金は、当面、留学生が上智大学を卒業した後、大学で学んだ知見をそれぞれの母国あるいは日本でどのように活かして実践していくかの「夢」を懸賞論文の形で語ってもらい、優秀な論文に対する賞金として使用されます。

## 業務ハンドブック

2019年の運営会議で、①役員若返り、②誰でも直ぐに業務を行えるようにする業務実施要領(マニュアル)の作成が提案されました。2020年に初版を発行し、一年かけて見直しを行い、2021年には30ページに及ぶ第二版を発行しました。今後も実務を通じて見直しを続けることとなりますが、現役員はもちろん新しく役員に就任される方にとっても重要なガイドブックとなります。

## 燦燦会の会員はソフィア会に貢献しています

ソフィア会は、2013年の上智大学創立100周年を機に「ソフィア会に顕著な貢献のあった会員を顕彰する」ことを目的とした「上智大学ソフィア会貢献者に対する顕彰規程」を定め、2019年秋季全国代議員会において第3回目の「ソフィアズ顕彰表彰式」を行いました。当日顕彰された13名のうち7名が燦燦会の会員で、その後1名が入会されています。顕彰表彰式は3年に一度開催されています。燦燦会の受賞者は、篠崎晃様(1960外西)、濱口吉右衛門様(1960経経)、石澤良昭様(1961外仏)、柳本信一郎様(1963経商)、米村征一郎様(1968理化)、ウィリアム・カーリー様(1968院前神)、上原治也様(1969経営)、和泉法夫様(1970理機)の8名となります。写真はソフィア会提供



# 上智大学校歌

一、見よ永遠に 春甦る 緑の樹響 高鳴るほとり  
やすらに憩う ソフィアの鷲の まなざし射るは Lux Veritatis  
おゝ 荘厳の学府 ソフィア  
うるわしの アルマ・マーテル ソフィア

二、聞け黎明の 天翔けりゆく 鷲の翼の 空打つひびき  
はがいに集う 生命の群の めざす行手は Lux Veritatis  
おゝ 荘厳の学府 ソフィア  
うるわしの アルマ・マーテル ソフィア

三、行け混濁の 闇打ち啓き 鷲のみちびく 輝く方へ  
燃ゆる心に 固く結びて 叫べとどろに Lux Veritatis  
おゝ 荘厳の学府 ソフィア  
うるわしの アルマ・マーテル ソフィア



QRコードをスキャンすると校歌が流れます▶

作詞 逸見貞男  
作曲 山本直忠

みよとこしえに はるよみがえる みどりのこだま  
たかなるほとり やすらにいこう ソフィアのわしの  
まなざし いるは Lux Ve-ri-ta-tis おお そうごんの  
がくふ ソフィア うるわしの  
アルマ・マーテル ソフィア

# 留学生による俳句です

第9回俳句コンテスト「2021年秋/冬」入賞作品

和訳：江澤健二さん(1960年文英)

赤とんぼそら飛び回る黄金の波

Kim Konhak

キム・コンハク、総合人間科学部

雪が降って駅前の君行かないで

Tana

タナ、地球環境研究科部

木枯しは肌に染みるが休めない

Alexander Landis

アレクサンダー・ランディス、物質生命理工学部

*Tokyo crowded trains*

*Freezing winter comes and goes*

*Cold, faceless crowd stays*

和訳：混む電車冷たい身元不明の衆

Asis, Edward Lugo

アシス・エドワード・ルゴ、FLA 国際教養学部

*Leaves slowly perish*

*Viridian turns to gold*

*Alchemy is real!*

和訳：青葉枯れ錬金術で金色に

Aliza Abrar

アリザ・アブラール、FLA 国際教養学部

*Even if the time of the frozen pond stops,  
the carp don't stop swimming.*

和訳：氷る池の時とまるとも鯉泳ぐ

Oh Minyoung

オ・ミニョン、新聞学科

*Breezy cold of change*

*The scent of fall still lingers*

*Dreams of pumpkin pie*

和訳：やや寒の風に夢見る南瓜パイ

Ngo Minh Hang

ゴー・ミン・ハン、FLA 国際教養学部

## 編集後記

会が立ち上がって10年経ちました。設立当時の会員の皆様はどうに80歳を超えています  
が、元気に活躍していただいています。理事長がおっしゃる「ダイヤモンド祝」対象者も元気  
いっぱいです。そんな会が外部から客観的にどう見られているかは大変気になるところです。  
今回は佐久間理事長、曄道学長、鳥居ソフィア会会長に燦燦会の印象についてお伺いし、お  
三方ともに燦燦会の活動に深いご理解を示され、温かい励ましのお言葉を頂きました。燦燦  
会の設立当時からお世話になっているカー先生、そして、サリ先生にも特別に寄稿してい  
たきました。また、燦燦会がイベントを開催する際に必ずお世話になっている学院、大学、そし  
てソフィア会の担当部署の責任者の皆様にも聞いてみました。皆様の声は私達の励みである  
と同時に、今後の活動に大いに役立つものと思っております。ご協力いただきありがとうございました。  
学院では、留学生支援活動の一環として「留学生夢支援募金」を開始します。ソフィ  
ア連携室の川瀬室長のメッセージにありますように、留学生支援という意味では燦燦会が主  
導する一口千円募金と共通していますが、その用途が異なっています。いずれにせよ、これか  
らは学院と協働しながら盛り上げていきたいと思っています。留学生との関係は一時的な  
「点」としての関係ではなく、「線」の関係に育て、そして、いずれは「面」として広げることが  
できれば素晴らしいと思います。その意味で、ザイラさんの投稿は大変示唆に富んでいます。ま  
た、留学生の生の声はこれからの活動を考える上で大変参考になります。新しい会則では燦  
燦会の思いと実態を明文化し、結果的にそのユニークさを会則上で表すことができました。そ  
の精神はゴールデンエイジャーにとつての堅い決意として未永く守っていききたいものです。最  
後になりますが、10年のあゆみの編集に関わってくださった方々にお礼申し上げます。

(石川雅弥1965年外英)



金祝燦燦会

第9回俳句コンテスト「2021年秋/冬」

和訳：江澤健二さん(1960年文英)

日本語俳句最優秀作品

白い中走るうさぎとかくれんぼ

Lahyani Miryam Yasmin

ラヒヤーニ・ミリアム・ヤスミン

FLA 国際教養学部

英語俳句最優秀作品

*Fragments of sunlight  
slow dancing in the wind,  
the golden leaves of fall*

和訳：日ひにきらきら風かぜにゆらゆら舞まう黄葉もみじ

Morimoto, Marissa Emi

モリモト・マリッサ・エミ

FLA 国際教養学部